

2019年度

山梨県学力把握調査結果の 概要

山梨県教育委員会

1 調査の概要

○目的

- ・生徒の学習の状況を把握するため、調査を実施し、結果の分析を通して、学習内容の不十分な理解を解消するなど、きめ細かな指導に役立てる。
- ・授業における指導方法や学校、家庭、地域における学習環境の改善に資する。

○調査の対象等

実施学年	実施生徒数	対象教科	調査問題の範囲
中学校第2学年	6,299人	国語・数学・英語	中学校第1学年までに学習した内容

○調査日時

実施日	実施時間		
	国語	数学	英語
平成31年 4月18日(木)	45分	45分	45分

※全国学力・学習状況調査と同一日に実施

○問題作成に関して

- ・授業改善の進捗状況を具体的に把握するために、山梨県学力把握調査や全国学力・学習状況調査結果において、経年的に課題とされている設問（正答率が低い設問、無解答率が高い設問、誤答に特徴がみられる設問）を基に調査問題を作成した。
- ・過去調査（山梨県学力把握調査 H23～H30、全国学力・学習状況調査 H19～H30）で出題された設問を基に作成した問題が全体の約二分の一、その他が新たに作成した問題である。

2 教科に関する結果

○全体の概要

- ・各教科の平均正答率は約6割である。
- ・改善の傾向にある内容がみられた。（詳細は各教科調査結果分析による）
- ・経年的に正答率が低い設問や無解答率が高い設問、誤答に特徴がみられる設問があり、今後も継続した授業改善への取組が必要である。

○各教科の結果

	国語	数学	英語
平均正答数/設問数	13.4/21	11.7/19	19.2/29
平均正答率 (%)	64.0	61.8	66.1

○各教科の概要（p. 3以降の各教科調査結果の分析から）

- ・国語では、根拠を明確にして自分の考えを書くことはできている。一方で、資料を読み内容を正確に捉えることに課題がある。

- ・数学では、空間における図形の位置関係を的確に捉えることができている。一方で、数量の関係を文字式に表したり、式の意味を読み取ったりすることについて課題がある。
- ・英語では、身近な話題について聞き取ることはできている。一方で、日常的な話題についての英文を読んで、必要な情報を読み取ることに課題がある。

③ 結果を踏まえた取組

①結果分析・公表

- ・管理職研修会（6月4日：校長，11日：教頭 実施）
各学校の管理職に向け、課題となる設問を基にした授業改善の取組について、学校で組織的な対応が図られるよう具体例を示した。
- ・学力調査を踏まえた授業改善のための説明会
（6月18日：小学校，20日：中学校 実施）
教諭等に向け、授業改善のための説明会を実施し、授業改善への具体例を示した。
- ・学力向上フォーラム2019（8月20日）
調査の分析結果を公表し、本県生徒の学力調査における結果と課題を共有する。
- ・山梨大学との連携
山梨大学と連携し、山梨県学力把握調査及び全国学力・学習状況調査結果について、専門的見地から助言を得、分析や各種資料に反映する。（昨年度からの取組）

②やまなしスタンダードの推進

- ・「やまなしスタンダード ～授業づくりの7つの視点～」の基、県全体で授業改善の取組を進める。特に、「②話し合い、討論、発表などの言語活動を効果的に取り入れている」という視点を具現化するものとして、「年間を通じて意識したい授業改善の視点」という授業改善例を明示する。

③学校訪問

- ・各学校が学力調査の結果を基にしたPDCAサイクルを確立する等の組織的な対応の進捗状況を把握する。授業観察や研究会での様子を踏まえ、適切な指導を行う。

④研究と研修の一体化

- ・昨年度から、各種調査結果の分析を総合教育センターが中心となり、行っている。分析結果を研修等に反映させ、各学校の授業改善に向けた取組につなげる。

⑤「ピックアップ問題」の作成と配信

- ・山梨県学力把握調査及び全国学力・学習状況調査の結果を受け、課題のある学習内容についてのピックアップ問題を作成し、確実な学力の定着を目指す。

⑥各事業との連携した取組

- ・家庭学習習慣化促進事業における家庭学習の推進

平成31年度 山梨県学力把握調査結果の分析 中学校第2学年・国語

【表1】

対象生徒数	平均正答数/設問数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
6,299人	13.4/21	64.0	14	3.99

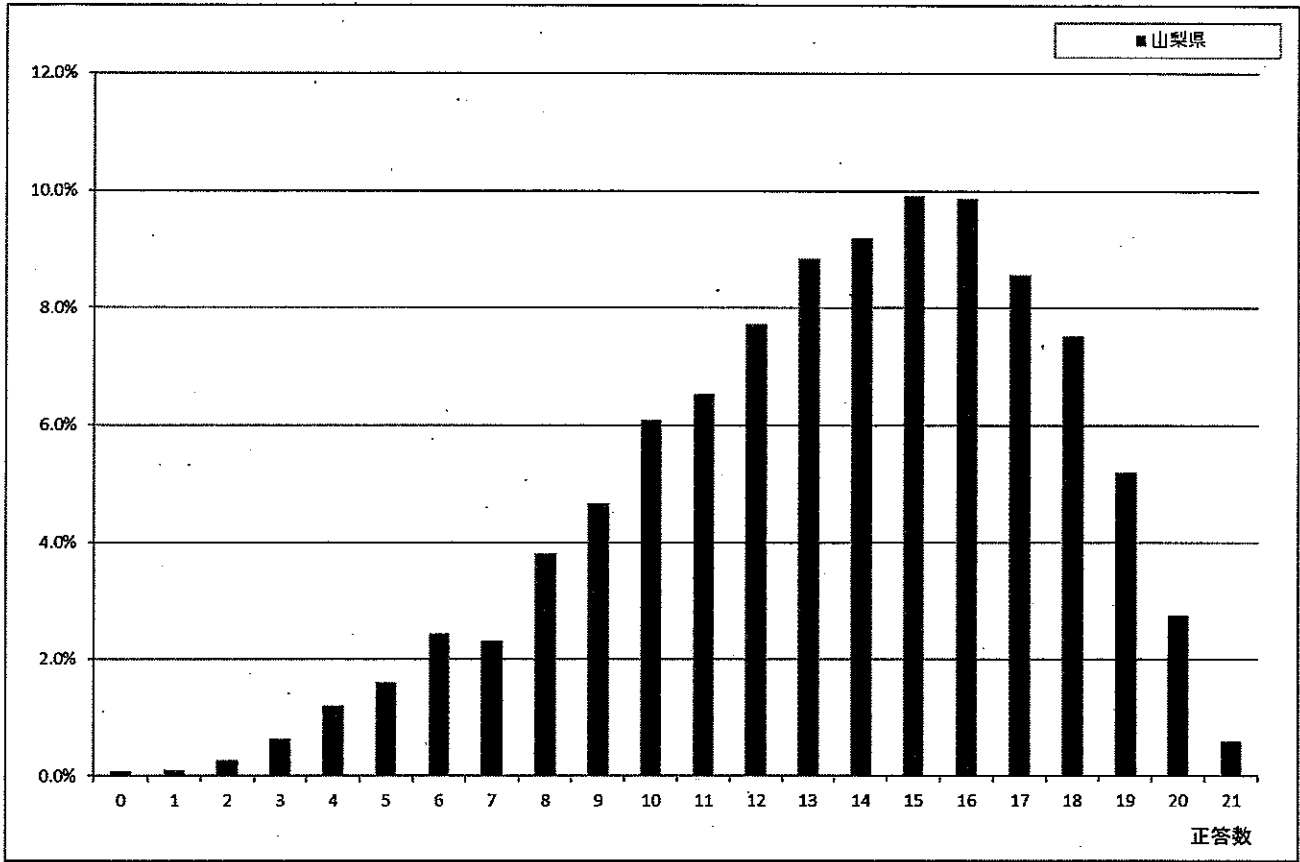
【表2】

分類	区分	対象設問数(問)	平均正答率(%)
学習指導 要領の 領域等	話すこと・聞くこと	3	71.6
	書くこと	4	73.2
	読むこと	3	56.8
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	12	61.7
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	3	77.3
	話す・聞く能力	3	71.6
	書く能力	4	73.2
	読む能力	3	56.8
	言語についての知識・理解・技能	12	61.7
問題形式	選択式	8	65.9
	短答式	9	63.3
	記述式	4	61.6

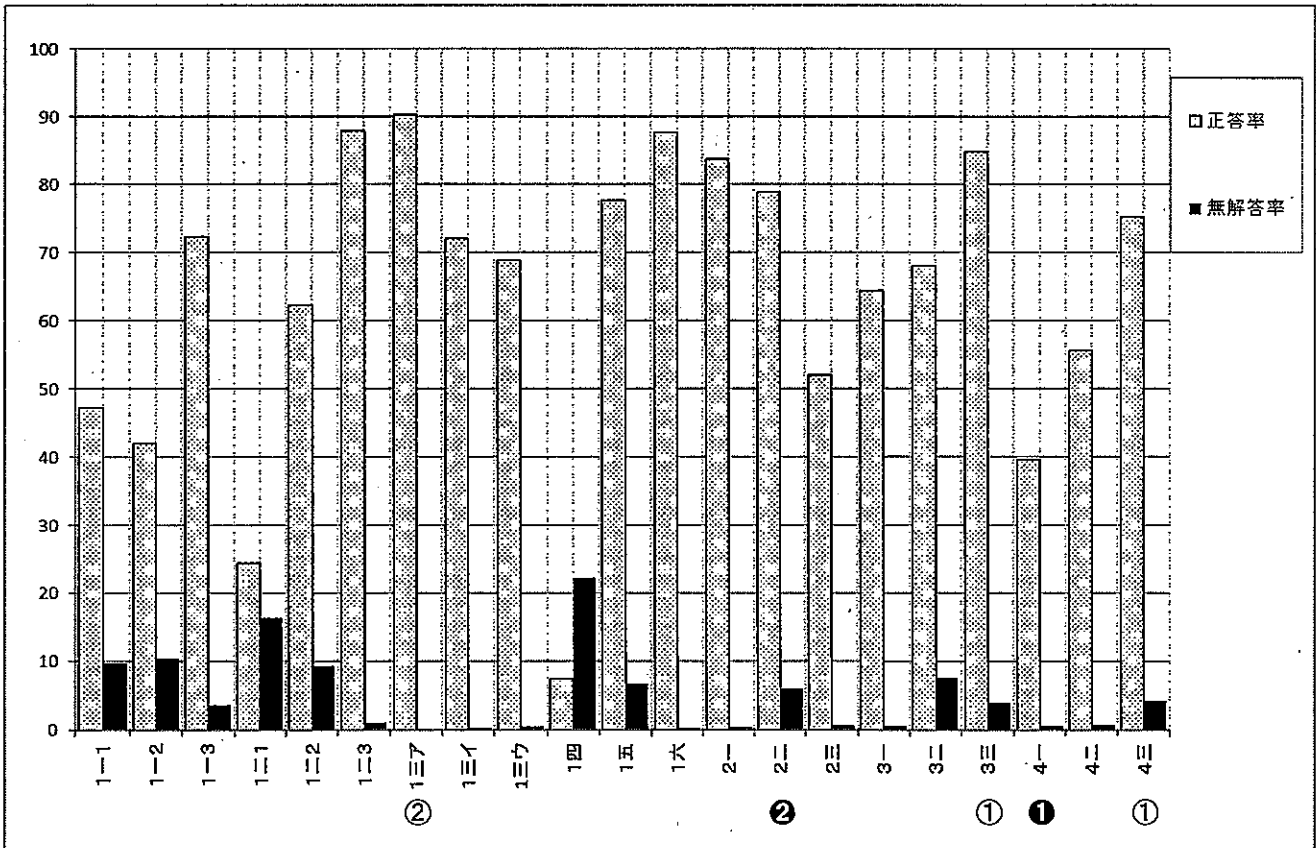
【成果(○)・課題(●)・対応策(⇒)】

- ①「記述式」の問題形式において、根拠を明確にした上で自分の考えを書く設問の正答率が高い。〔3三 正答率84.9% 無解答率4.1%〕〔4三 正答率75.3% 無解答率4.3%〕引き続き自分の考えを文章に表す場面を意図的に設けていきたい。
- ②「選択式」の問題形式において、適切な語句を選択する設問について正答率が高いものがあった。〔1三ア 90.3%〕引き続き言語環境を整え、語彙の拡充につながる指導を工夫したい。
- ①「読むこと」の領域において、文章の内容を捉え、文脈の中における文章の理解に課題がみられる。〔4一 39.6%〕
⇒説明的な文章の学習において、段落の要点や文章の要旨を捉えることについて、既習事項を振り返り、指導に生かす必要がある。また、文脈に即して漢字を正しく読む〔1二1 24.4%〕、文脈におけるそれぞれの語句の意味を捉える〔1三ウ 68.9%〕などの学習にも指導が必要である。
- ②「話すこと・聞くこと」の領域において、話の展開に注意して聞き、必要に応じて質問することに課題がみられる。〔2二 78.9%〕
⇒聞き取ったことを自分の考えと比べて、その共通点や相違点を整理することが必要である。その際、必要に応じて質問し、相手が言いたいことを確かめたり、足りない情報を聞き出したりするなど、適切な機会を捉えて質問できるように指導することが大切である。

【正答数分布グラフ】（横軸：正答数，縦軸：割合）



【設問別正答率・無解答率グラフ】（横軸：設問番号，縦軸：割合）



【設問ごとの正答率・解答類型の反応率・無解答率(%) 過去調査との差(ポイント)】

設問番号	設問の概要	正答率	解答類型 (下線が正答、9は1～6以外の解答)							無解答率	差
			1	2	3	4	5	6	9		
1-1	漢字を書く(てんらん会で美術作品を見る)	47.2	47.2	17.1	11.1				14.7	9.8	
1-2	漢字を書く(転んで足をふしやうした)	42.0	42.0	24.4	8.9				14.3	10.4	
1-3	漢字を書く(落ちていたゴミを手でひろう)	72.3	72.3	20.1					4.0	3.6	-4.2 H28 県小5
1二1	漢字を読む(留学資金を貸与する)	24.4	24.4	0.3	32.0				26.7	16.5	
1二2	漢字を読む(専門家からご意見を承る)	62.3	62.3						28.2	9.4	
1二3	漢字を読む(厳しい現実から目を覚める)	87.9	87.9						11.0	1.1	
1三ア	適切な語句を選択する(苦しいとき、人の優しさが身にしみる)	90.3		3.4	2.2	1.8	90.3		2.2	0.2	②
1三イ	適切な語句を選択する(口論の後、目を合わせるのはきまりが悪い)	72.1		12.6	72.1	10.9	1.8		2.3	0.3	
1三ウ	適切な語句を選択する(読み手に対し、わかりやすく印象深い文章にするために推敲を重ねる)	68.9		7.9	10.8	9.5	68.9		2.3	0.6	
1四	「誰(何)」の「どのようなこと」に「感銘を受けた」のかがわかるように主語を明らかにした一文を書く	7.5	7.5	0.2	5.1	0.1	45.6	1.3	17.9	22.3	
1五	歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す(よそほひ)	77.7	77.7	0.1	0.8				14.6	6.8	
1六	行書で書かれた「ネ」を楷書に書き直す	87.6	87.6	11.7					0.4	0.3	
2一	二人の質問の意図として適切なものを選択する	83.8		3.0	83.8	8.0	3.9		0.9	0.4	-4.9 H30 全
2二	二人に続いてする質問を書く	78.9	78.9	0.9	2.4	10.1			1.6	6.1	-10.4 H30 全
2三	ロボットに期待することを述べて発表をまとめる際の話の進め方として適切なものを選択する	52.1	52.1	28.3	8.2	10.4			0.4	0.7	-3.6 H30 全
3一	用いられている表現の工夫を選択する	64.4		8.6	64.4	13.0	12.9		0.3	0.7	-3.5 H28 県
3二	必要な情報を抜き出して、「山梨でほうとうが作られるようになった理由」を書く	68.0	68.0	4.7	13.2				6.4	7.7	-0.6 H28 県
3三	【紹介ボード】に載せる写真を選び、その写真を選んだ理由を書く	84.9	84.9	0.5	6.8	0.7			3.0	4.1	-1.2 H28 県
4一	「イベルメクテン」の説明としてふさわしくないものを選択する	39.6		14.7	39.6	31.7	13.0		0.3	0.7	①
4二	文章の構成や表現の特徴を説明した文として適切なものを選択する	55.6	55.6	15.8	8.4	19.1			0.3	0.9	
4三	「人の真似は絶対にしない」と言い聞かせてきた理由を説明する文の一部を書く	75.3	75.3	12.4	5.6	0.5			1.9	4.3	①

【正答率 上位3題・下位3題】

上位3題

	設問番号	評価の観点	問題形式	設問の概要	正答率 (%)
1	1三ア	言語	選択	適切な語句を選択する(苦しいとき, 人の優しさが身にしみる)	90.3
2	1二3	言語	短答	漢字を読む(厳しい現実から目を背ける)	87.9
3	1六	言語	短答	行書で書かれた「ネ」を楷書に書き直す	87.6

下位3題

	設問番号	評価の観点	問題形式	設問の概要	正答率 (%)
1	1四	言語	記述	「誰(何)」の「どのようなこと」に「感銘を受けた」のかがわかるように主語を明らかにした一文を書く	7.5
2	1二1	言語	短答	漢字を読む(留学資金を貸与する)	24.4
3	4一	読む	選択	「イベルメクチン」の説明としてふさわしくないものを選択する	39.6

【無解答率の高い設問】上位3題

	設問番号	評価の観点	問題形式	設問の概要	無解答率 (%)
1	1四	言語	記述	「誰(何)」の「どのようなこと」に「感銘を受けた」のかがわかるように主語を明らかにした一文を書く	22.3
2	1二1	言語	短答	漢字を読む(留学資金を貸与する)	16.5
3	1一2	言語	短答	漢字を書く(転んで足をふしゅうした)	10.4

【解答類型の分析結果で、誤答に特徴の見られる設問】

	設問番号	評価の観点	問題形式	設問の概要	反応率 (%)
1	1四	言語	記述	「感銘を受けた」の主語が明らかになっていない(類型5)	45.6
2	4一	読む	選択	「イベルメクチン」の説明としてふさわしいものを選択している(類型3)	31.7
3	2三	話す・聞く	選択	ロボットに期待することを述べて発表をまとめる際の話の進め方として適切なものを選択していない(類型2)	28.3

平成31年度 山梨県学力把握調査結果の分析 中学校第2学年・数学

【表1】

対象生徒数	平均正答数/設問数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
6, 296人	11.7/19	61.8	12	4.01

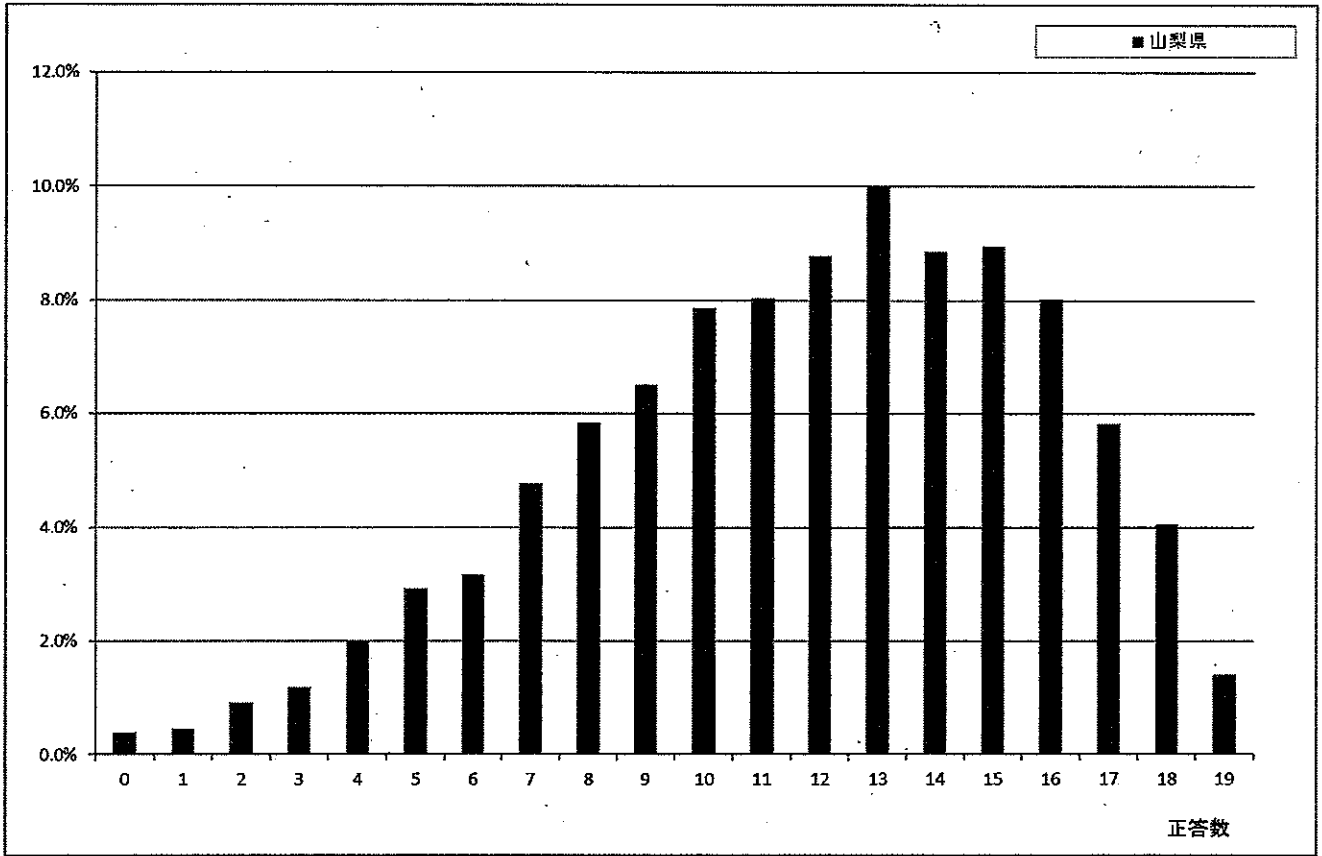
【表2】

分類	区分	対象設問数 (問)	平均正答率 (%)
学習指導 要領の 領域	数と式	7	63.0
	図形	5	61.9
	関数	4	69.0
	資料の活用	3	49.3
評価の観点	数学的な見方や考え方	6	58.5
	数学的な技能	11	58.8
	数量や図形などについての知識・理解	2	88.4
問題形式	選択式	8	69.0
	短答式	8	61.0
	記述式	3	44.7

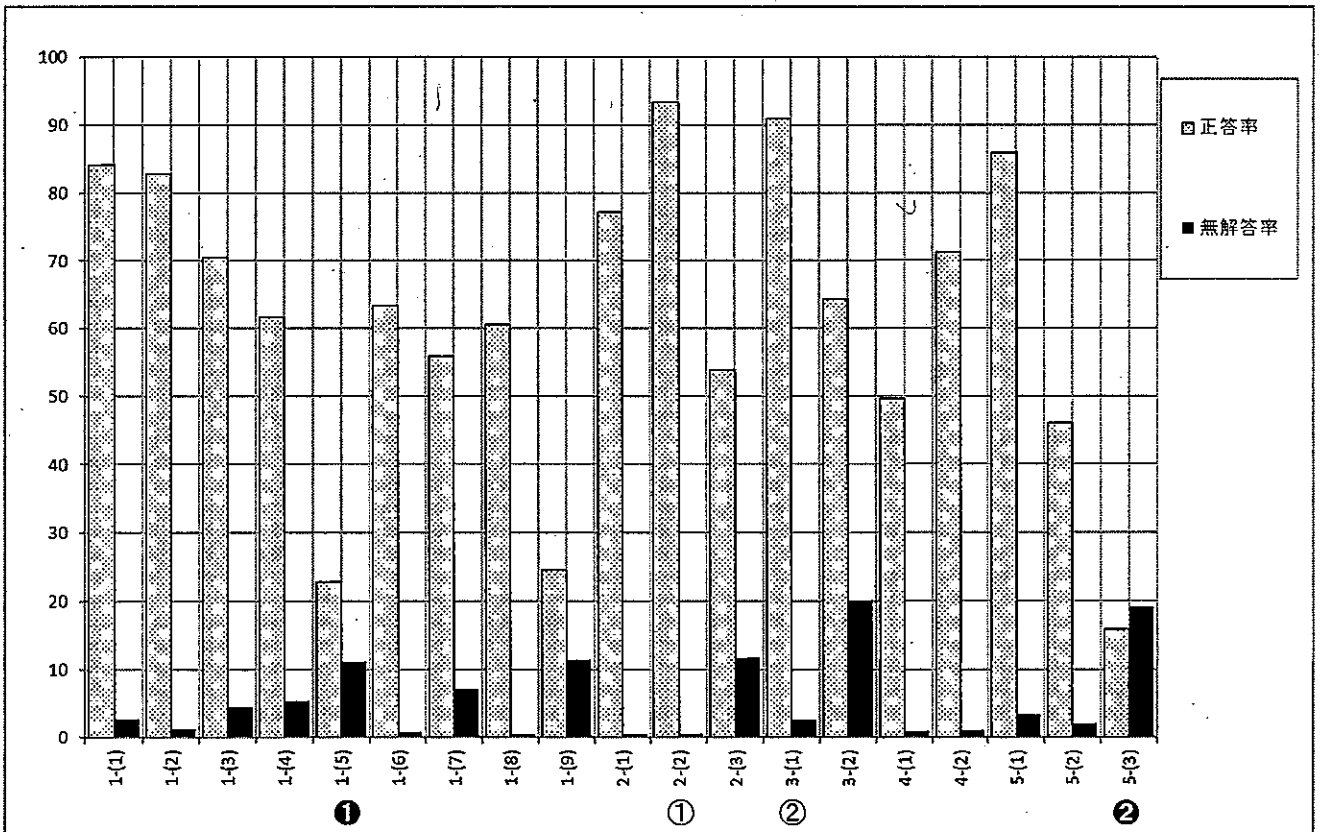
【成果 (○)・課題 (●)・対応策 (⇒)】

- ①「図形」領域において、日常的な事象を表した図から必要な情報を適切に選択し、空間における図形の位置関係を的確に捉えることについての正答率が高く、実生活で用いられる平面図や見取図などを相互に関連付けて考えられるように指導することが引き続き大切である。〔2 (2) 93.4%〕
- ②「関数」領域において、与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることについての正答率が高く、表やグラフと具体的な事象を対応させて考えられるように指導することが引き続き大切である。〔3 (1) 90.9%〕
- ①数量の関係を文字式に表すことについての正答率が低く、指導の充実が求められる。〔1 (5) 22.8%〕
 なお、「 $4a/7$ (cm)」という誤答の割合が高かった。〔1 (5) 解答類型3 52.1%〕
 ⇒関係を図に表したり、具体的な数や言葉を使った式を利用したりして関係を捉え、その関係を文字式に表すことができるように指導することが大切である。
- ②資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することについての正答率が低く、指導の充実が求められる。〔5 (3) 15.9%〕
 ⇒収集したデータを整理したグラフの形から分布の特徴を視覚的に捉えたり、代表値を求めて比較したりするなど、数学的な表現を用いて判断の理由を説明する活動を充実することが大切である。

【正答数分布グラフ】（横軸：正答数，縦軸：割合）



【設問別正答率・無解答率グラフ】（横軸：設問番号，縦軸：割合）



【設問ごとの正答率・解答類型の反応率・無解答率(%) 過去調査との差(ポイント)】

設問番号	設問の概要	正答率	解答類型 (下線が正答、9は1～8以外の解答)									無解答率	差
			1	2	3	4	5	6	7	8	9		
1-(1)	$2/5 \times 3/7$ を計算をする	84.1	84.1								13.2	2.7	
1-(2)	$5 - (-8)$ を計算する	82.7	82.7	9.8	1.8						4.5	1.3	
1-(3)	$a = -5$ のとき、 $-3a$ の値を求める	70.5	70.5	3.9	0.7	10.4					9.9	4.5	
1-(4)	$(5a - 8) - 2(a - 4)$ を計算する	61.6	61.6	0.0	2.9	0.0	6.5	2.6			20.9	5.4	
1-(5)	赤いテープの長さが a cm で、白いテープの長さの $4/7$ 倍のとき、白いテープの長さを a を用いた式で表す	22.8	22.8	0.0	52.1						14.1	11.1	①
1-(6)	「1枚4gの便せん x 枚を、重さ5gの封筒に入れると、重さは25g以下である。」という関係を不等式で表す	63.4	17.8	6.6	3.0	63.4	8.1				0.2	0.9	1.4 H27 県
1-(7)	一次方程式 $5x - 6 = 2x - 1$ を解く	55.9	55.9	1.5	2.4	0.7					32.4	7.2	
1-(8)	投影図で表されている図形の名称を答える	60.6	29.5	6.7	2.1	60.6	0.3				0.3	0.5	0.8 H25 県
1-(9)	半径2cmの球の体積を求める	24.5	24.5	9.5	2.4						52.2	11.4	1.0 H28 県
2-(1)	案内図を基に、経路を示すはり紙を選ぶ	77.1	2.4	14.9	77.1	5.0					0.0	0.6	1.3 H26 全
2-(2)	外から校舎を見た図で、案内図に示された非常口の位置を選ぶ	93.4	93.4	2.3	1.7	1.8					0.1	0.6	0.1 H26 全
2-(3)	図形の性質を用いて、横断幕が木にまったく隠れない最も低い位置を求める方法を言葉や図で説明する	53.9	14.9	6.9	0.8	24.3	6.9	0.1	0.3	6.1	28.0	11.7	-6.8 H26 全
3-(1)	与えられた表やグラフから、人数が24人のときに6.0秒かかったことを表す点を求める	90.9	2.0	0.8	0.8	90.9	1.5	1.0	0.0		0.4	2.6	1.9 H26 全
3-(2)	大地さんの求め方を基に、ウェーブをする人数と時間について、2つの数量の間の関係を説明する	64.3	42.4	21.9	0.7	1.0	1.9	0.8			11.2	20.1	-1.6 H26 全
4-(1)	示された事象の中から、反比例の事象を選ぶ	49.6	16.0	12.5	49.6	20.5					0.4	1.0	7.6 H23 県
4-(2)	比例の表から x と y の関係を式に表す	71.2	6.0	71.2	13.1	8.4					0.2	1.1	-0.6 H26 県
5-(1)	1週間の総運動時間が420分のとき、含まれる階級の度数を求める	85.9	85.9	0.5							10.3	3.4	3.9 H29 全
5-(2)	全校生徒の女子の中で、若菜さんの1週間の総運動時間が長い方がどうか判断するための根拠となる値として適切なものを選ぶ	46.1	29.2	46.1	14.5	5.0	1.4				1.8	2.0	-7.7 H29 全
5-(3)	「420分未満より420分以上の女子の方が、合計点が高い傾向にある」と主張できる理由を、グラフの特徴を基に説明する	15.9	6.4	9.5	1.9	1.3	6.8	6.5	0.3		48.2	19.0	1.6 H29 全

【正答率 上位3題・下位3題】

上位3題

	設問番号	評価の観点	問題形式	設問の概要	正答率 (%)
1	2-(2)	見方考え方	選択	外から校舎を見た図で、案内図に示された非常口の位置を選ぶ	93.4
2	3-(1)	知識理解	選択	与えられた表やグラフから、人数が24人のときに6.0秒かかったことを表す点を求める	90.9
3	5-(1)	知識理解	短答	1週間の総運動時間が420分のとき、含まれる階級の度数を求める	85.9

下位3題

	設問番号	評価の観点	問題形式	設問の概要	正答率 (%)
1	5-(3)	見方考え方	記述	「420分未満より420分以上の女子の方が合計点が高い傾向にある」と主張できる理由を、グラフの特徴を基に説明する	15.9
2	1-(5)	技能	短答	赤いテープの長さが a cmで、白いテープの長さの $\frac{4}{7}$ 倍のとき、白いテープの長さを a を用いた式で表す	22.8
3	1-(9)	技能	短答	半径2cmの球の体積を求める	24.5

【無解答率の高い設問】上位3題

	設問番号	評価の観点	問題形式	設問の概要	無解答率 (%)
1	3-(2)	見方考え方	記述	大地さんの求め方を基に、ウェーブをする人数と時間について、2つの数量の間の関係を説明する	20.1
2	5-(3)	見方考え方	記述	「420分未満より420分以上の女子の方が合計点が高い傾向にある」と主張できる理由を、グラフの特徴を基に説明する	19.0
3	2-(3)	見方考え方	記述	図形の性質を用いて、横断幕が木にまったく隠れない最も低い位置を求める方法を言葉や図で説明する	11.7

【解答類型の分析結果で、誤答に特徴の見られる設問】

	設問番号	評価の観点	問題形式	設問の概要	反応率 (%)
1	1-(5)	技能	短答	赤いテープの長さが a cmで、白いテープの長さの $\frac{4}{7}$ 倍のとき、白いテープの長さを a を用いた式で表す(類型3)	52.1
2	1-(8)	技能	選択	投影図で表されている図形の名称を答える(類型1)	29.5
3	5-(2)	見方考え方	選択	全校生徒の女子の中で、若菜さんの1週間の総運動時間が長い方かどうかを判断するための根拠となる値として適切なものを選ぶ(類型1)	29.2

平成31年度 山梨県学力把握調査結果の分析 中学校第2学年・英語

【表1】

対象生徒数	平均正答数/設問数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
6, 295人	19.2/29	66.1	19	5.53

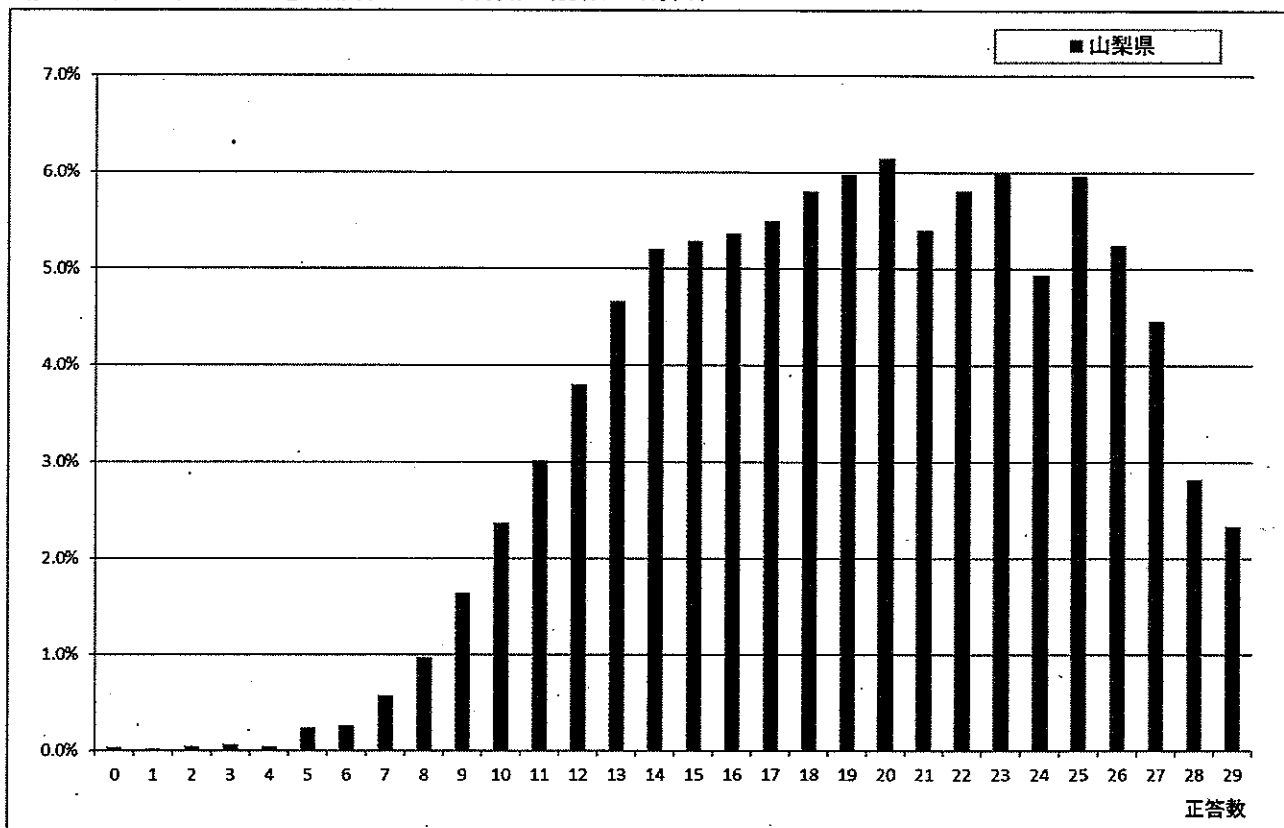
【表2】

分類	区分	対象設問数 (問)	平均正答率 (%)
学習指導 要領の 領域等	聞くこと	12	81.8
	読むこと	3	41.6
	書くこと	1	43.2
	言語材料	14	57.8
評価の観点	外国語表現の能力	1	43.2
	外国語理解の能力	8	71.7
	言語や文化への知識・理解	20	64.9
問題形式	選択式	16	68.7
	短答式	7	73.0
	記述式	6	50.9

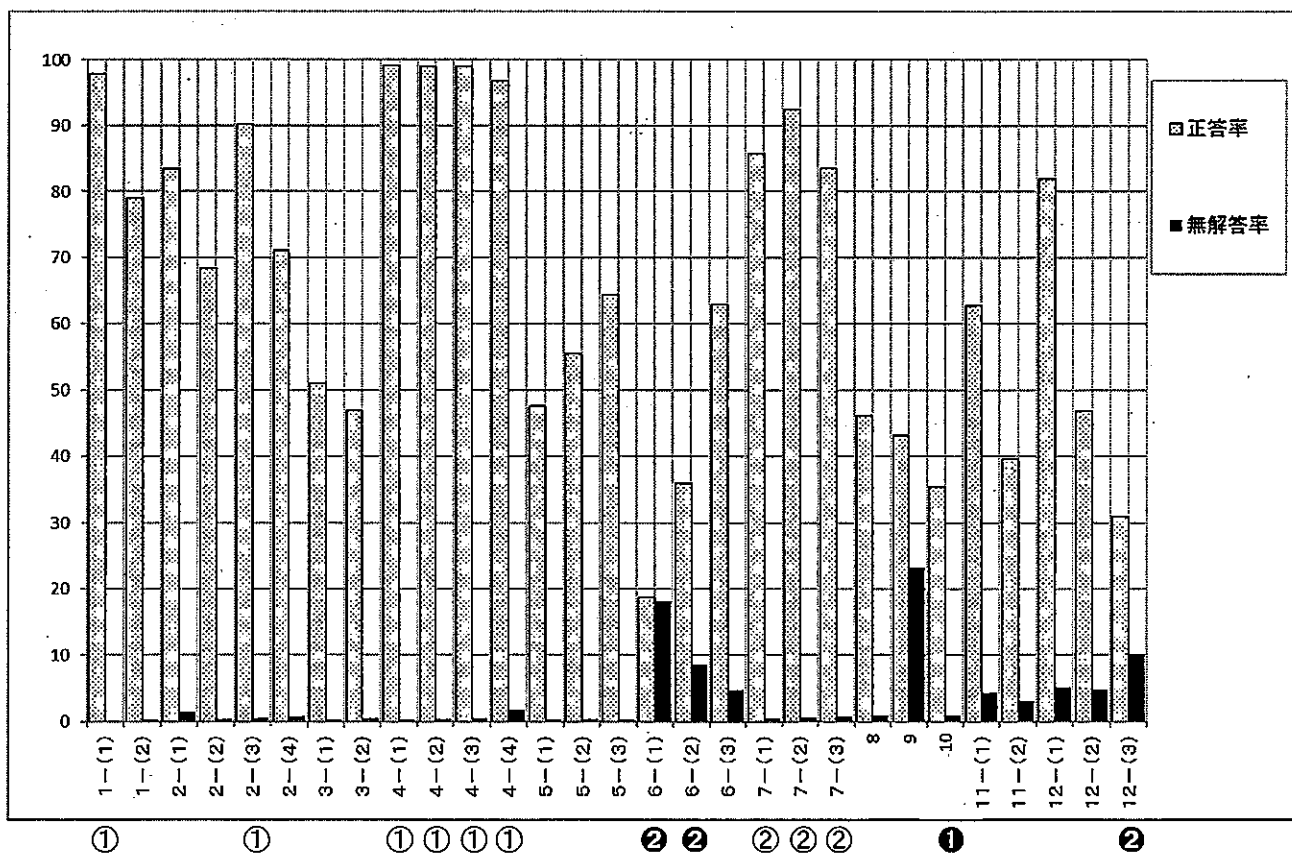
【成果 (○)・課題 (●)・対応策 (⇒)】

- ①「聞くこと」の領域において、How many～? What time～?など、小学校外国語活動で慣れ親しんだ表現を使った聞き取りについては、正答率が高く、定着がみられる。[1(1)97.9% 2(3)90.3%] また、簡単な自己紹介などの身近な話題について聞き取る問題についても正答率が高く、必要な情報を聞き取ることができている。[4(1)99.1% 4(2)99.0% 4(3)99.0% 4(4)96.8%]
- ②「言語材料」の領域において、会話の流れに合う適切な文を選択する問題において、正答率が高い。簡単な質問や日常的な表現に適切に応答する力が身に付いている。[7(1)85.8% 7(2)92.5% 7(3)83.6%]
- ①「読むこと」の領域において、時間割を見て、その内容を表す文を選ぶ問題において課題がみられる。[10 35.4%]
⇒日常的な話題について簡単な語句や文で書かれたものを読む活動においては、教師の質問に答えたり、キーワードを抜き出したり、図でまとめたりする活動を通して、訳読にとどまらない内容の理解を進める必要がある。「読むこと」の指導の際には、書かれていることの全てを読み取ろうとするのではなく、必要な情報を読み取る、概要を捉える、要点を捉えると目的に応じた様々な読み取り方ができるよう、指導の工夫をすることが大切である。
- ②「言語材料」の領域において、文にふさわしい三人称単数現在形の動詞や疑問文、否定文を書くことについて課題がみられる。[6(1)正答率 18.6% 無解答率 18.1% 6(2)正答率 35.9% 12(3)正答率 30.9% 無解答率 10.2%]
⇒文法指導の際に、生徒が学習する文法を使った文が「どのように形づくられるか、どのような意味なのか、いつ・なぜ・どのような場面で使われるのか」について理解が深められるよう、目的・場面・状況を意識した言語活動の中で指導することが大切である。また自分の気持ちや考えを伝え合う5領域の言語活動の中で繰り返し活用することで、定着を図る。

【正答数分布グラフ】（横軸：正答数，縦軸：割合）



【設問別正答率・無解答率グラフ】（横軸：設問番号，縦軸：割合）



【設問ごとの正答率・解答類型の反応率・無解答率(%) 過去調査との差(ポイント)】

設問番号	設問の概要	正答率	解答類型 (下線が正答、9は1～7以外の解答)							無解答率	差		
			1	2	3	4	5	6	7			9	0
1-(1)	やり取りの内容に合う絵を選択する	97.9	0.7	0.5	97.9	0.7				0.0	0.1		①
1-(2)	やり取りの内容に合う絵を選択する	79.0	11.5	79.0	4.8	4.4				0.0	0.3		
2-(1)	簡単な質問文を聞き取り、それに対する応答の文を選択する	83.5	4.0	83.5	5.9	5.1				0.0	1.5		
2-(2)	簡単な質問文を聞き取り、それに対する応答の文を選択する	68.4	68.4	4.8	23.6	2.9				0.0	0.4		
2-(3)	簡単な質問文を聞き取り、それに対する応答の文を選択する	90.3	2.7	2.7	3.8	90.3				0.1	0.5		①
2-(4)	簡単な質問文を聞き取り、それに対する応答の文を選択する	71.0	8.7	12.7	71.0	6.7				0.0	0.8		
3-(1)	やり取りの内容を受けて、それに対する質問としてふさわしくないものを選択する	51.1	21.5	51.1	26.9					0.1	0.3		
3-(2)	やり取りの内容を受けて、それに対する質問としてふさわしくないものを選択する	47.0	25.7	26.6	47.0					0.2	0.5		
4-(1)	聞き取った内容について日本語で書く	99.1	99.1	0.1						0.4	0.3		①
4-(2)	聞き取った内容について日本語で書く	99.0	99.0	0.3						0.3	0.4		①
4-(3)	聞き取った内容について日本語で書く	99.0	98.8	0.2	0.2					0.3	0.5		①
4-(4)	聞き取った内容について日本語で書く	96.8	31.0	65.8	0.0	0.0				1.3	1.8		①
5-(1)	文にふさわしい語を選択する	47.6	41.6	47.6	10.3					0.3	0.2	2.4 H30 県	
5-(2)	文にふさわしい語を選択する	55.5	55.5	27.0	16.8					0.3	0.4	-3.0 H30 県	
5-(3)	文にふさわしい語を選択する	64.4	30.6	64.4	4.4					0.3	0.2	1.3 H30 県	
6-(1)	文にふさわしい動詞を書く	18.6	18.6	24.6	1.7	3.2	2.8	5.0		25.9	18.1	3.9 H30 県	②
6-(2)	文にふさわしい動詞を書く	35.9	35.9	3.3	1.2	19.5				31.5	8.6	-12.5 H30 県	②
6-(3)	文にふさわしい動詞を書く	62.9	62.9	17.3	5.5	3.3				6.3	4.8	3.3 H30 県	
7-(1)	会話の流れにふさわしい文を選択する	85.8	85.8	9.0	4.6					0.0	0.5	1.8 H30 県	②
7-(2)	会話の流れにふさわしい文を選択する	92.5	4.2	92.5	2.7					0.0	0.6	-0.2 H30 県	②
7-(3)	会話の流れにふさわしい文を選択する	83.6	83.6	2.4	13.2					0.0	0.8	-1.1 H30 県	②
8	英文の内容に合う組み合わせを選択する	46.2	22.4	46.2	6.0	23.7				0.7	1.0	8.0 H30 県	
9	英文を書く	43.2	38.4	4.8	17.6	6.8				9.2	23.2	-2.1 H30 県	
10	時間割を見て、その内容を表す文を選択する	35.4	35.4	27.1	25.1	0.0				11.2	1.0		①
11-(1)	英語を並べ替える	62.7	58.5	4.2	6.8	24.0				2.1	4.4	6.8 H30 県	
11-(2)	英語を並べ替える	39.6	39.4	0.2	50.5	5.8				0.9	3.1	7.6 H30 県	
12-(1)	与えられた情報を用いて、人を紹介する英文を書く	82.0	79.9	2.0	0.1	0.3	7.1	2.3		3.3	5.1		
12-(2)	与えられた情報を用いて、人を紹介する英文を書く	46.8	45.8	1.0	21.0	0.1	8.7	9.6	6.6	2.6	4.7		
12-(3)	与えられた情報を用いて、人を紹介する英文を書く	30.9	15.7	15.2	26.2	0.7	6.0	6.5	0.9	18.6	10.2		②

【正答率 上位3題・下位3題】

上位3題

	設問番号	評価の観点	問題形式	設問の概要	正答率 (%)
1	4-(1)	知識理解	短答	聞き取った内容について日本語で書く	99.1
2	4-(2)	知識理解	短答	聞き取った内容について日本語で書く	99.0
	4-(3)	知識理解	短答	聞き取った内容について日本語で書く	99.0
3	1-(1)	知識理解	選択	やり取りの内容に合う絵を選択する	97.9

下位3題

	設問番号	評価の観点	問題形式	設問の概要	正答率 (%)
1	6-(1)	知識理解	短答	文にふさわしい動詞を書く	18.6
2	12-(3)	知識理解	記述	与えられた情報を用いて、人を紹介する英文を書く	30.9
3	10	理解	選択	時間割を見て、その内容を表す文を選択する	35.4

【無解答率の高い設問】上位3題

	設問番号	評価の観点	問題形式	設問の概要	無解答率 (%)
1	9	表現	記述	会話文を読んで、会話の流れに合う英文を書く	23.2
2	6-(1)	知識理解	短答	日本文の内容に合うように、英文の()内に三人称単数現在形の動詞を書く	18.1
3	12-(3)	知識理解	記述	与えられた情報を用いて、人を紹介する三人称単数現在形の否定文を書く	10.2

【解答類型の分析結果で、誤答に特徴の見られる設問】

	設問番号	評価の観点	問題形式	設問の概要	反応率 (%)
1	11-(2)	知識理解	記述	英語を並べ替える問題で、What do you like food?と解答しているもの (類型3)	50.5
2	5-(1)	知識理解	選択	文にふさわしい be 動詞を選ぶ問題で、Yumiko and I の後に am を選んでいるもの (類型1)	41.6
3	5-(3)	知識理解	選択	文にふさわしい疑問詞を選ぶ問題で、What do you like, spring or summer?と疑問詞 What を選んでいるもの (類型1)	30.6

